

鬼石中だより



自立・貢献

藤岡市立鬼石中学校
令和6年度学校だより 第12号
令和7年3月26日
文責：校長 五十嵐

* 第39回卒業式 3/13*

令和7年3月13日（木）、藤岡市立鬼石中学校第39回卒業式を挙行し、24名の生徒が巣立ちました。今年度は、来賓として、藤岡市教育委員代表様、PTA会長様及び副会長様、地元市議会議員様をはじめ、鬼石地区の区長会、民生児童委員協議会、更生保護女性会の代表の皆様にご臨席いただくと共に、学校運営協議会及びたくさんの保護者の皆様にご出席いただきました。ありがとうございました。



式は厳粛な中にも真心のこもった雰囲気で行進していきました。送辞、答

辞は、卒業生、在校生それぞれへの感謝の念が込められた、たいへん立派なものでした。全校合唱「旅立ちの日に」や、三年生が歌ってくれた合唱曲「正解」には、思わず目頭が熱くなりました。卒業式全体を通して生徒全員が、鬼石中生としての誇りと、中学校の善き伝統を体現した、大変感動的な卒業式となりました。

校長式辞では、三年生への餞として「クイックリアクション」の十文字を贈りました。「クイックリアクション」は夢を叶えたり、輝かしい将来を約束したりする言葉です。やりたいことを頭の中で思っているだけでは何も変化は起こりません。未来を見据え、やると決意したら、強い心と希望を持って、「クイックリアクション」ですぐに動き出してほしい、そんな願いを込めてこの言葉を贈りました。

卒業式にご臨席いただいた皆様をはじめ、地域の皆様に見守っていただいたおかげで今日を迎えることができました。本当にありがとうございました。

* 授業参観・PTA年度末総会・学級懇談会 2/28 *

今年度最後の授業参観を行いました。ご覧いただきながら子供達の成長を実感していただけたことと思います。お忙しい中、参観いただきありがとうございました。

また、PTA年度末総会にも、たくさんの保護者の皆様にご参加いただきました。年度始めに、「我々PTAが子どもたちの生き方のモデルとなり、子供達の成長に必要なことを率先して実践し、相互に信頼し協力し、同じ目的に向かって力を合わせていきましょう」と、お伝えしましたが、おかげさまで、保護者や地域の皆様の温かい励ましが、生徒たちの学習意欲を高めるなど、学校全体の活性化につながっています。この1年間、様々な行事を通して生徒た



ちは大きく成長しました。どの生徒も、鬼石中生としての誇りと自信を持ち、胸を張って中学校生活を送っている姿に、校長として大きな感動と喜びを感じています。鬼石中の教育活動にご尽力いただきました、本部役員、学年委員、すべてのPTA会員の皆様に改めて、心より、感謝申し上げます。

学校としては引き続き皆さんの力を借りながら、一体的に学校経営の充実を図っていきたくと考えています。生徒たちの大切な節目に向けて、また、更なる成長に向けて、教職員一同力を合わせてまいりますので、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

* 3学期校長講話のまとめ *

朝礼、集会、学校行事等で生徒たちに話をするときに心がけていることがあります。それは、話の焦点を一つに絞り、短時間で話すことです。話は「どう言ったか」ではなく、「どう伝わったか・どう受けとられたか」が重要です。だとすれば、話し手は、伝えたいことを聞き手の心に言葉として残さなくてはならないと考えます。その結果、伝えたいことを端的に表現する最適な(長すぎず、短すぎない)文字数として、「十文字」にたどり着いたわけです。

当然、文字数だけでなく、話す内容にもこだわりました。話には、面白い話、役立つ話、感動的な話、注意をする話、激励する話など色々ありますが、私は、世の中を「生きていく上で役立つ」話を中心にしてきました。生徒一人一人がこれらの話を基に自己の精神を鍛え、「善さを磨いて一步前進」しながら成長していくことを心から願っています。



「一年の計は元旦にあり」(12月2学期終業式)

よく「一年の計は元旦にあり」と言うが、ここで言う「計」は計画の「計」で、目標ではない。また、この言葉は「一日の計は朝にあり」に続く言葉で、全ての計画や準備は、早く整えるべきであり、先ず計画を立ててから、実行に移すべきことの例えである。何事も最初が肝心であるという戒めを意味している。

「強い心と希望を持って」(1月3学期始業式)

どんな時代であっても、私たち人間は、希望を持って生きていくことができる。それは自分の意思で自分の生き方を決めることができるからである。困難な状況に直面しても、明日を信じて、困難を乗り越え生きていくのだ。一寸先は闇ではなく希望の光である。明日はどうなるかわからないが、今日一日笑顔で過ごすしていく、そんな強い心を持った生き方を、希望を持って貫いていこう。

「陰徳を積み運を貯める」(2月朝礼)

陰徳とは、人に知られない善い行いのこと。同じ善いことをするのなら、人に知られないほうがいい。陰徳を積み、ご褒美は神様から来る。陰徳は人が知らないので、人からはご褒美はもらえないが、神様がその人の「運」として貯金してくださるのだ。そして、その「運」が「いつか必ず実現する、いつか必ず叶う」と信じてがんばる人のもとに訪れるのではないだろうか。

「努力する人は必ず輝く」(3月朝礼)

明月時に至り 清風自ずから来る「明月自至 清風自来」(北宋司馬光の作)

澄みわたった美しい満月が出れば、その月を引き立てるような清らかな風が、自然と吹いてくるものである。同じように、努力する人は必ず輝き、そして必ずその努力を認める風が吹く、ということである。努力は必ず報われる、そう信じて前進してほしい。

「クイックリアクション」(3月卒業式式辞)

「クイックリアクション」とは、早く反応することである。「クイックリアクション」は夢を叶えたり、輝かしい将来を約束したりする言葉だと考える。頭の中で思っているだけでは何も変化は起こらない。未来を見据え、やると決意したら、強い心と希望を持って、すぐに動き出す、それが、「クイックリアクション」である。

「挑戦そこに人生がある」(3月令和6年度修了式)

「百尺竿頭須進歩 十方世界現全身」 この言葉の意味は、やっとのことで到達した目標であっても、そこに満足するのではなく、さらにもう一步前に踏み出す、こんな気持ちで生きよ、ということ。学びの道は片道切符の終わりなき道で、前進あるのみ。まもなくスタートする令和7年度に自分の風をおこし、新たな一步を力強く踏み出そう!